

# NEW DENTAL SALON

## お知らせ

令和2年度 臨時総会他  
新入会員

## トピック

令和2年度 保険講習会  
栃木市との協議会  
壬生町との協議会

### 歯科医師会と私

今野一比古 先生

山井 健嗣 先生

### 車のある風景写真を撮る

鎌田 俊介 先生

### これからよろしく

田熊 真由美 さん

### 業者からの耳より情報

株式会社 岩瀬歯科商会

## 編集後記

あけましておめでとうございます。昨年の「コロナによる世界的なパニックは、この先も世代を超えて語り継がれる」ほど世の中が大きく変えられました。今までは当たり前に出来ていた何もかもが中止中止で、残念な年となってしまいましたが、今年はワクチンにも期待して、普通に落ち着いた一年が過ごせることを切に願っています。

広報担当理事 清野栄治

## ネット配信広報誌第11号 2020年秋冬

## お知らせ

令和2年度下都賀歯科医師会臨時総会及び下都賀歯科医師連盟定時総会は、令和3年3月24日に開催されます。

令和3年1月14日に開業相談会が開催され、以下お二人が入会されることとなりました。

栃木市柳橋町 湯本夏子 先生  
壬生町本丸 栗原 悠 先生

## 令和2年度 保険講習会

令和2年12月9日、10日の2日間にわたり、標記講習会が開催された。

講師の田村先生から、まずは総論として保険診査の流れ、一次返戻や症状詳記の際のコメント留意点等につき詳しく説明があった。次に各論として初・再診算定の時期、医学管理、P関連、処置、X線、麻酔、外科・投薬、クラウン・ブリッジ、義歯関連等についてその算定ポイント等を分かりやすくご指導いただいた。

その後、岡本先生からは、自身が個別指導に何度も立ち会い、その上で感じた指導現況について、包み隠さずざっくばらんにお話しいただいた。

今回はコロナウイルス感染拡大防止のため、当日の質問・発言は受け付けず、FAXによる事前質問、さらにFAXによる事後質問という形式をとり、受けた質問とその回答、さらに厚労省からの新たな連絡事項については、講習会不参加の会員も含めた全会員に後日FAX送信を行った。



さて本講習会はコロナ禍の中、特に第3波で感染者が増加している中の開催となり、事前の役員会において感染拡大防止の観点から開催を危惧する声が上がったが、今年は県歯保険講習会ならびに小山歯科医師会との合同講習会がともに中止であったこと、さらに臼井会長の「保険診療は会員の生活の糧であるから、本事業は開催すべし」というご意見のもと、感染防止策を徹底し開催する運びとなった。

当日は密を避けるため52名の申し込みを26名ずつの2日間に分け、全員がマスク着用の上、会場ではソーシャルディスタンスの確保、また寒い夜であったが換気の徹底を行い、さらに講習時間も1時間程度で終了させるという時間的制約を設ける等、異例の開催とはなったが、2日間とも無事に終了することが出来、また講習会から1ヶ月以上が経った今、会員から感染者が出なかったことに執行部としては安堵している次第である。



## 令和2年度 栃木市保健福祉部との協議会

2日間に分けて行った保険講習会の翌日、12月11日（金）午後4時から下都賀郡市医師会 研修室において標記協議会が開催された。

この協議会も9回目を迎え今やすっかり毎年の恒例事業となっている。内容は「当会の要望事項に対し行政側がどう考えているのか？ さらにその可否につき意見交換する」場であるが、今年に限り当初は保険講習会よろしくコロナ禍ゆえ中止予定、行政側からは文書で回答を頂く手筈であった。しかしその後、栃木市健康増進課・石川交子課長のご尽力により、少人数、短時間での縮小会議なら市としても協議会を開催したい旨の連絡があり、なんとか実現する運びとなった。



当日、行政側からは大川市長、藤田保健福祉部長、石川健康増進課長、茅原地域包括ケア推進課長ら限定7名の出席、当会からも臼井会長はじめ栃木市の理事のみの限定7名が出席し協議会を行った。今年には下記の4項目を栃木市に要望し、それに対する回答は以下の通りである。

### 1. 災害、有事の際の具体的な取り決めに関する要望

2016年に市と災害協定と締結して丸4年経過したが、昨年の台風19号の際、市との具体的な取り決めがないため、当会として避難所等へ口腔ケア用品等の物資寄付は行ったものの、それ以上市民への積極的な行動支援があまり出来なかった。そこで実際の行動マニュアルを作成すべく、医師、薬剤師、看護師等を含めた協議会の定期的な開催、即座に支援可能な体制を整備・構築することを要望した。



#### < 栃木市の回答 >

現在、大規模災害時における医療体制マニュアル作成を進めている。救護所の設置場所の検討をはじめ、地震、水害等で避難所生活が長期にわたる場合の避難市民への口腔ケアの指導を誰がどう行うか、さらにマスク、アルコール等の衛生用品、口腔ケア用品、診察セットの備蓄について等、素案が出来次第、関係各所と協議会を始めたいと思っている。

## 2. 口腔がん検診の対象年齢拡大に関する要望

栃木市の50歳からの口腔がん検診は導入から3年が経過し、市民にも浸透してきたところであるが、近年、口腔がん発症の低年齢化が認められていることに加え、栃木県は他県に比べその発症率が高いことから、早期発見、発症率の抑制のため検診の対象年齢拡大を要望した。

### <栃木市の回答>

ご指摘のとおり、口腔がんは患者さんに単なる口内炎と捉えられたまま症状が進行し、気づいた時には重症化してしまうケースもあることから、栃木市においても現在の50歳から実施している口腔がん検診を来年度からは40歳から76歳までと、対象年齢を拡大したいと思う。より一層、先生方のご協力をお願いしたい。



## 3. 出産後歯科健診に関する要望

栃木市「歯および口腔の健康づくり推進条例」第8条基本的施策第1号は「妊産婦に対する歯科保健対策」となっている。つまり幼児よりも何よりも妊産婦の口腔健康を一丁目一番地に掲げている。出産前と産後では体調の変化のみならず口腔内環境も大きく変化することから、現在の妊娠中または出産後1年以内に計1回のみ受診できる妊産婦歯科健診を、妊娠中1回、さらに出産後1回の計2回受診できるよう、3回目の要望をした。

### <栃木市の回答>

市としても妊産婦の口腔健康が重要であることは認識している。昨年からの妊産婦の無料歯科健診を妊娠期のみでなく、受診していない産婦には産後1年まで受診できるよう健診期間を拡大したが、昨年の受診率32.5%から今年度36.2%と受診率は低く横ばいであり、まずはこの受診率の向上が先決と考える。健診回数を2回には出来ないが、産後でも受診できることから、母親教室等で受診率向上の周知強化を図っていきたいと考えている。



#### 4. 介護従事者向けの歯科講習会の導入に関する要望

在宅介護や在宅医療の推進は高齢化社会へ向かう中で最重要課題であると思われるが、その現場に携わる介護従事者さん達から、自立支援会議等で歯科口腔ケアの講習会を要望されることが増えてきている。つまり現場に直結した従事者に歯科的知識を習得していただくことは、患者さんの状態が歯科医師や衛生士に迅速かつ正確に伝わり、訪問歯科診療の有効性が増すばかりか、病態の早期発見・早期治療につながることを考える。そこで介護従事者向けの歯科講習会の導入を検討していただくよう要望した。

<栃木市の回答>

ご提案のとおり、介護現場における口腔ケアの向上は本市全体の介護サービスのレベルアップに繋がると考えている。また高齢者が自立者生活を続けられるよう医療と介護が連携した抜け目のない立体的なサービス提供につながる取り組みであることから、在宅介護サービス事業所連絡会や介護支援専門員連絡協議会などの関係団体と協力して介護従事者に対する歯科講習会を次年度は開催したく、その予算立てが現在進行中である。



#### ◎ その他 白井会長から

今年度から栃木市休日歯科診療が始まった。栃木市には休日歯科診療所が無いことから、担当歯科医院での開催であるが、将来的には行政としてその拠点を作ってもらいたい。

<栃木市の回答>

現在の急患センターが老朽化して改築する際には、歯科ユニットの新設、拠点を作りたいと思う。何とか予算を計上し、将来的にはその方向で検討したいと考えている。



## 令和2年度 壬生町との協議会

令和2年9月24日（木）災害発生時対応に係る打ち合わせ会議が、壬生町防災センター会議室に於いて開催されました。

壬生町より佐々木正裕総務課長、熊倉律子健康福祉課長、福田健治総務課消防防災係長をはじめ6名の他に壬生町議会より遠藤恭子議員が出席、下都賀歯科医師会壬生町部会より本島部会長、君島副部会長、中野の3名が出席しました。



行政より以下の説明を受けました。

(1) 避難所の運営について

避難所の設定予定場所やその規模など。また、先日の台風19号における、避難所の設置の経緯、避難者の人数や当日の様子について、具体的な数字や写真にて説明がありました。

(2) 医薬品等の物品について

現在(予定も含む)における備蓄品の品名、数量、保管場所について

(3) 連絡体制について

災害発生時、避難所開設時における連絡体制について

(4) その他

歯科医師会からは、持ち運びできる携帯型の歯科医療器材（ポータブルユニット、ポータブルレントゲン等）、薬品、診療用基本セット、口腔ケアのための用品など避難所でも診療するための材料を備蓄品に加えること、また、連絡体制に歯科医師会も加えるよう要望しました。

壬生町と下都賀歯科医師会は「災害時の歯科医療救護に関する協定書」を平成28年より結んでいます。会議の為に改めて協定書を読み返したり、他県における備蓄品などについて調べました。また、壬生町地域防災計画、避難所マニュアルの膨大な資料に驚きました。災害に対応する為の準備の大変さ、難しさについて勉強出来ました。

今回初めて防災に関する会議が行われ、壬生町より丁寧な説明がありとても勉強になりました。

幸いなことに壬生町では長期間に及び避難所が設置されるような災害は発生していませんが、災害時に町民の役に立てるように今後も行政との連携を密にし勉強していかなければならないと思いました。

壬生町行政との連携はもちろんですが、それ以上に大切なのは会員の先生方の協力だと思います。いつ起こるかわからない災害に適切に対応できるように、町民に喜んでもらうために、歯科医師会での会合や活動がある場合には参加、協力を是非お願いします。



# 歯科医師会と私

今野一比古

デンタルサロンの原稿を順番に書けという事なので、私の知る下都賀歯科医師会について書きます。

私は翌4月で70才になりますが、当会入会は平成8年で年の割に入会は遅くなっています。その訳は最初に歯科医院を開業したのは、埼玉県の蕨市で、蕨戸田歯科医師会に昭和53年に入会しました。ここで丸9年程過ごし、次に同じ埼玉県の川口歯科医師会に入り、川口市でほぼ9年間診察し、3番目に入会したのが下都賀歯科医師会です。

平成8年入会当時の会長は添野典也先生で、当時は委員会が終わると、2次会、3次会となり、帰宅は夜中ということが殆どでした。ただ、その（飲み続けるという）事は、蕨戸田や、川口歯科医師会でも頻繁に機会がありましたので、時代の流れだったと認識しています。

当時入会から間もない私にとっては、添野先生や、他の先生方の率直な御考えを聞かせて頂くとても良い機会でした。又、色々な先生方から助言、アドバイスを頂き有難く思っていました。最近では社会全体の流れとして、その様な機会が減っている様ですが、長所も沢山あったと思っています。残念乍ら最近では、毎日薬を飲まなければならない身体となり、アルコールは殆ど飲まなくなりました。

現在の楽しみは海釣りで、時化ていなければほぼ毎日曜日は遊漁船の上に居ますが、最近では時化が多く、思う様に釣行出来ません。又、地球温暖化の影響は気候変動や、海水温度の変化をもたらす、釣れる魚種もかなり変化しています。特に最近10年間の変化は著しくなっている気がします。もう20年、30年前の海には戻らないのでしょうね。

釣りについて書き出すときりがないので、この辺で止めます。



# 歯科医師会と私

山井 健嗣



師走に入り、2020年が終わろうとしています。2020年と言えば8年前「Tokyo」とオリンピック招致が決まり、国立競技場を始めとし各地で工事が行われ、誰もが日本の輝かしい未来を想像していたでしょう。

しかし、まさかの事態が起きました。中国武漢を発端に全世界に新型コロナウイルス感染症が蔓延してしまっただけです。今までのSARS、MERSとは違い致死率の低さが油断を招いたのでしょうか？未だに収束の兆しのないまま、1年が過ぎようとしています。

4月には全国緊急事態宣言、デパート、飲食業も店を閉め、Tokyoから人影が消えてしまいました。行き交うのはUberイーツだけです。会社ではテレワークが主流になり、学生はリモートでの自宅授業に切り替わり非日常が始まったのです。

最初は、誰もが緊張しながら生活必需品の買い出しや、仕事を張り詰めた中で行っていましたが、待ち受けていたのは人との関わりがなくなった精神的なストレスだったのです。

我が家も大学生の息子が授業もリモートに切り替わり、嫁いだ長女も妊娠を機に里帰りし、四人での生活が始まりました。成長した娘、息子との生活は今まで気づけなかった事を改めて知る事の出来た、大切な時間となりました。

人は人との関わりなしに生活する事は、とても淋しく孤独だと思ふ事に気づかされました。このコロナを通して誰もが感じているのではないのでしょうか？人の温もりの大切さを、家族がいたから、仕事の仲間がいたから、友がいるから頑張れる自分があることを。

最後に私事ですが、11月に初孫が誕生し守ってあげたい大切な存在がまた増えました。

コロナは歴史に残る大変な出来事ではありますが、人間が忘れかけていた家族愛、人間愛をもう一度考える機会を与えてくれた出来事と私は思います。

来年はコロナが収束して少し成長した自分に期待したいと思っております。

そして、今年に延期になった下都賀歯科医師会の行事を感染対策に留意しながら行えばと思っております。

# 車のある風景写真を撮る

鎌田 俊介

こんにちは。前回の記事は2年前の“これからよろしく”にて、休日の子育てについて書かせて頂きました。今回は個人的な趣味について書かせていただきます。

車好きの私は、独身時代にはツーリング仲間とツーリング、美味しいラーメンを食べに行くドライブが中心でした。家族が出来てからは、早朝家族が起きてくる前の、自由時間に出来ることに変わりました。車好きでもジャンルが幾つかあるのですが、目に留まったのは車の撮影です。スマートフォンのカメラも凄く性能はよくなってきておりますが、一眼カメラの表現力と比べてしまうと全然違う世界でありました。

SNSの世界では、写真投稿に特化したインスタグラムも流行りだして、カッコよく車の写真を撮る人も増えました。私もカッコいい写真が撮りたくなり、一眼カメラを購入し朝の自由時間でのドライブと写真撮影にハマったのでした。

拙い写真ではございますが、いくつか紹介させていただければと思います。



【日の出と筑波山】



【ドラマチックトーン】



【霧降高原の雲海】



【山車会館】



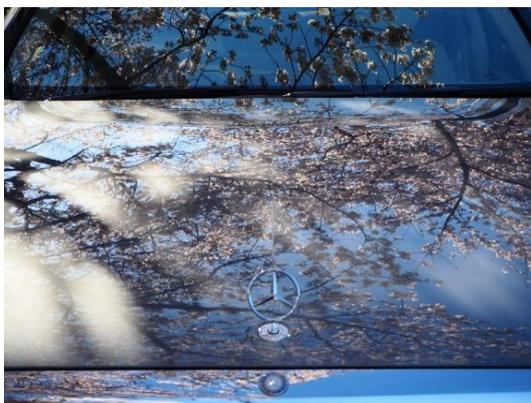
【宮の桜】



【鹿沼の夜桜】



【桜のリフレクション】



【竹林】



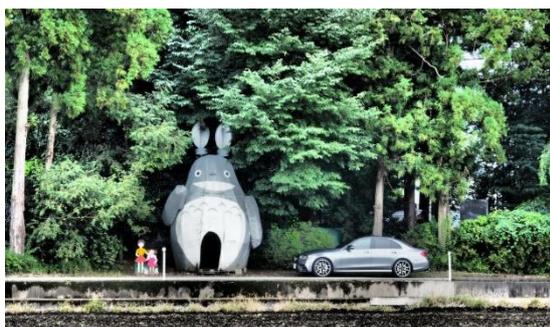
【ひまわり】



【巴波川紫陽花】



【となりのトトロ】



【ミラコスタ】



【石灰工場】



【変電所】



【紅葉】



【もみじ】



【おまけのポートレート】



ご覧いただき、ありがとうございました。

# これからよろしく

---

田熊真由美

---

皆さんはじめまして。田熊真由美と申します。昨年の4月から事務局で働かせていただいております。

私は小山市出身で、学生時代を含めた20代の頃は県外にいましたが、30代以降は地元に戻り生活しております。現在も小山市在住ですが、栃木市の歯医者さんに長く通っており、且つこのような形で歯科医師会にお世話になることとなり、本当に不思議な縁を感じております。

趣味は小さな頃から続けている水泳くらいですが、基本的に体を動かすことが大好きです。性格は周りから生真面目で気が強いと言われることが多いです。自分では残念ながら、ぼんやり、そそっかしいタイプだと自覚しております。前職では、商業施設での売上管理など、事務職に携わっておりました。

今回、歯科医師会事務局に入るまでは、歯科医師の先生方が日々の診療の他に、団体としてさまざまな活動をされているとは全く存じ上げておりませんでした。今般の新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事や集まりが中止となってしまい、先生方とお会いする機会が少なくて非常に残念です。

仕事面はまだまだ不慣れなことばかりで、自分に務まるのか自問自答する毎日です。先輩の青木さんにはご迷惑ばかりおかけしていますが、日々辛抱強く指導していただきとても感謝しております。至らない点も多く、先生方に何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



# 業者からの耳より情報

---

株式会社 岩瀬歯科商会

---

今回は、2019年7月に発売したデンツプライシロナ株式会社のセレックプライムスキャンについてお話しさせて頂ければと思います。もうすでに発売から1年半以上経過しておりますので、ご存知の先生方も多くいらっしゃるかと思いますが、改めて特徴をお話しできればと思っております。

セレックはフルシルテム（院内完結型）である事が一番の特徴と言えらると思います。歴史は古く、1985年に世界初の歯科用CAD/CAMとして臨床応用されました。インレーからはじまり、35年以上にわたり今日では、インプラントや、矯正など多様な症例に対応しています。その中でも最新のプライムスキャンは従来品に比べて、

精度・・・『スマートピクセルセンサー』による1秒間に100万を超える3Dポイントの処理により、写真のようなリアルデータを作成。『ダイナミックデプススキャン』技術で最大20mm深度をシャープネスに再現。

操作性・・・不要エリアはオートカットするAIスキャンや、無駄のない広いガラス有効面積により、最後臼歯などのアクセスしにくい領域や、光沢のあるマテリアルもスキャン。セルフヒーティング機能内蔵により、口腔内でもカメラが曇らずスキャン可能。

スピード・・・取り込まれた膨大な量のデータからコアとなる必要なデータのみを取り込み、計算の迅速化・最適化を実現。また、フルアーチスキャンでは従来比の25%の時間短縮が可能。

セレックといえば即日治療が基本コンセプトではありますが、最近では活用方法も多様化しています。スキャナーとミリングマシンのどちらも導入し、最初から院内完結型のシステムにするのか。ラボとのコミュニケーションをスムーズに図れる、無料のクラウドサービス『コネクトケースセンター』（デンツプライシロナ株式会社が提供する、ユーザー間のデジタルデータのやり取りをスムーズに繋ぐインターネット上のサービス）も確立されていますので、最初はスキャナー単体のみを導入して、データをラボに送るというスタイルを選択するのか。どちらにせよ、デジタル化への移行は、今後さらに普及すると共に、免れない流れなのではないかと思っております。

なかなか文章でお伝えする事が難しく、百聞は一見にしかず、ということわざのように少しでも興味を持って頂けるようであれば、まずはご体感頂きたいと思います。さまざまなお客様のニーズにお答えできるセレックのデモンストレーション等のご要望が御座いましたら、弊社担当営業までお問い合わせ頂けますよう、よろしくお願い致します。

## 人間工学「エルゴノミクス」に基づく設計 歯科医師のニーズに応えたワークステーションPrimescan

- ・ワイドタッチスクリーン** 16:9の反射防止タイプの可動式ワイドタッチスクリーンとタッチパッドは、直感的に使用ができ、作業効率を大幅に改善
- ・広いワンショット撮影範囲** 短時間でより多くのデータを収集、無駄のない、広いガラス有効面積により、最後臼歯までも簡単にアクセス
- ・ヒーティング機能内蔵** セルフヒーティングにより、口腔内でカメラが曇らずにスキャンが可能
- ・ダイナミックレンズ** 最大20mmの測定深度でもシャープさと精度を実現
- ・モーションセンサー** スキャナーをホルダーから外すと、自動でスイッチがオン、スムーズなスキャンがスタート
- ・スマートピクセルセンサー** 1秒間に100万を超える3Dポイントを処理し、写真のようにリアルで極めて正確なデータを作成、天然歯および様々なマテリアルの修復物の表面を迅速かつ容易にスキャン
- ・インテリジェントプロセッシング** 取り込まれた膨大な量のデータからコアとなる必要なデータのみを取り込み、計算の迅速化・最適化を実現



### 新たな可能性を広げる選択肢

デジタルラボや外注先パートナーとの連携ワークフローだけでなく、  
チェアサイド加工機を導入すればOne Visit Treatment (1回の通院治療)のワークフローにも対応。

#### Primescan:

- ・デジタルラボや外注先パートナーへデータ送信
- ・コネクテッドケースセンターのインボックスを通じて、セキュリティを確保し、暗号化したデータをデジタルラボ、外注先パートナーへ送信
- ・チェアサイドOne Visit Treatment(1回の通院治療)ワークフローにアップグレードが可能

#### CEREC Primescan:

- ・One Visit Treatment (1回の通院治療)を実現するためのチェアサイドワークフローに対応
- ・フレキシブルなデータのエクスポートオプション
- ・AIテクノロジーによって実現した自動化ワークフロー

一般的名称:チェアサイド型歯科用コンピュータ支援設計・製造ユニット 販売名:セレック プライムスキャン AC 承認番号:30100BZX00044000 管理医療機器 特定保守管理医療機器

詳しいお問い合わせ先  
株式会社岩瀬歯科商会 宇都宮支店  
佐々木 亮太 高久 瞬  
TEL 028-613-5858